



一貫コース通信

家庭菜園から考えた事

今から3年半ほど前に、人生で初めて手術、そして入院をしました。そのことは、私の人生にとって大きな転換点となりました。それまで、仕事一筋に歩いてきた私にとって、立ち止まって今までの人生を振り返ったり、これからの人生を考える時間を与えてくれたからです。

その時考えた事が幾つかあります。一つは、もっと家族・家庭を大事にしようという事でした。仕事優先で、家のことはどうしても後回しになっていたからです。他に考えた事は定年後の過ごし方です。自宅では何もすることがなく、ただ体を休める今までの私では、定年後はだらだらと過ごしボケへまっしぐらになってしまうに違いありません。何か生きがいや目標を持って過ごせるようにしないとだめだなと思いました。

そこで、新しく家庭菜園を始めることにしました。もともとは農家ということもあって資材がある程度揃っていたこと、年老いた母が今でも少しばかり野菜を作っていたので教わりやすかったこともあり、始めやすかったからです。と言っても素人ですから、初めは簡単な葉物、アブラナ科の小松菜や水菜、キク科のサニーレタスや春菊などに取り組みました。その野菜作りは、丹精込めて育てて初めて収穫の喜びを得ることができます。どこか仕事にも相通じるものがあって、夢中になるのに時間はかかりませんでした。

家庭菜園を始めてしばらくすると、いくら肥料に水、温度や日射に気を配っても、肝心の土が良くないと良い野菜が採れないことに気づきました。私の家の畑は粘土質で水はけが悪く、雨が降ると固まってしまう土だったのです。そこで土作りから始めようと、今度は落葉堆肥づくりにも挑戦することにしました。秋に落ち葉を集めて堆肥を作り、それを畑に投入すると水はけがよくなり、土が団粒構造となって野菜作りに適したものとなるからです。

落葉堆肥づくりをしていて、ふと、学習における土台、土って何だろうと考えてみました。何事も基礎基本が大事と言われますが、野菜作りでは土、では学習では何だろうと思ったのです。一般に学習の基礎基本は読み書きそろばんと言われるように、しっかり読めて、自分の考えを文章に書け、そして計算が出来ることになります。でもそれだけではないような気がしていました。読み書きそろばんがきちんとできて、大学受験に成功しない生徒もいたからです。



私の中で最終結論は出ていません。ただ最近、間違っているかもしれませんが学習の土台は生活習慣ではないかと思い始めました。教科指導をしていて、読み書きそろばんどころか化学的なセンスもあるのに一向に成績が向上しない生徒は、その大半が家庭学習が苦手な生徒だという事実が思い浮かんだからです。規則正しい生活が送れ、その中にきちんと家庭学習が入っている生徒は着実に成績が伸び、大学受験において夢を叶えています。でも、いくら能力が優れていても家庭学習の習慣が身につけていない生徒の多くは、どこか成績が頭打ちで終わっていたのです。

もし生活習慣が学習の土台、家庭菜園でいう土づくりに当たるとすると、学校だけでは解決しないこととなります。学校はもちろんですが、大半の時間を過ごす家庭の協力が不可欠です。習慣を変えるためには意志が必要です。その意志は、一つは将来のビジョン、志から来ているように思えます。将来こうなりたい、だから今これこれに取り組む、そのために一日の使い方をこうしようと考え、あらたな生活習慣ができるのだと思います。もしそうだとすると、将来のビジョンや志は親子の話し合いの中で固まったりより強固なものになっていくはずで。また、いったん決意して生活習慣を変えようとしても弱さを持つのも人間です。その時、叱咤激励を適切に行うのも家庭の役割かなと考えます。

最近、葉物だけでなく南瓜、西瓜、メロン、オクラにも手を広げて取り組んでいます。うまく行ったら夏に生徒たちに西瓜割をさせたいともくろんでいます。その野菜の手入れや草刈りの為に、日の出とともに起きる生活習慣に変えました。伸び悩んでいる生徒さんがいたら、将来の目標の為に自分の生活習慣を見直し、必要があれば変えてくれたらと思います。保護者の方におかれましては、お子様と将来のビジョンや志を話し合う機会を設けたり、生活習慣への適切な助言をお願いしたいと思います。家庭菜園から考えたことを徒然なるままに書きました。参考になれば幸いです。